

マイルチャンピオンシップ出走予定外国馬プロフィール

➤ ドックランズ (DOCKLANDS) = イギリス

牡 5 歳・鹿毛 (イギリス産・2020 年 4 月 30 日生まれ)

父 : Massaate = 母 : Icky Woo (母の父 : Mark of Esteem)

馬 主 : O. T. I. Racing

調教師 : ヘンリー・ユースタス

騎 手 : マーク・ザーラ

戦 績 : 全 20 戦 4 勝、2 着 6 回、3 着 2 回

総獲得賞金 : 約 2 億 240 万円

主な戦績 : '25 クイーンアンステークス (G1) 1 着

'24 クイーンアンステークス (G1) 2 着

ドックランズはイギリスのミッドランズスタッドの生産馬です。当歳時のタタソールズ 12 月セールに上場されて、競走馬輸送などを手掛けるミッドランドエクワインに 1 万 8,000 ギニー (当時約 270 万円) で落札されると、翌年のタタソールズ 9 月セールでは競走馬の購買などエージェンツ業を行うブランドフォードブラッドストックに 1 万 6,000 ポンド (当時約 230 万円) で競り落とされ、現在の馬主である O. T. I. レーシングの所有馬となりました。

血統は父がハンガーフォードステークス (G2) の勝馬で、英 2000 ギニーなど G1 で 2 着 2 度のマサート (その父テオフィロ) で、本馬以外の主な産駒にオーストラリアのホークスベリークラウン (G3) 勝馬ココジャンボーがいます。母のイッキュー (父マークオブエステーム) は不出走でしたが、ドックランズの半姉イッキーマショー (父マルチプレックス) はアメリカでビウィッチステークス (G3) を、半兄ハーバービューズ (父ルアーヴル) はオーストラリアでリステッド競走を優勝。祖母のバンティブーはヨーロッパで短距離の G3 を 2 勝しています。

ニューマーケットに厩舎を構えるヘンリー・ユースタス師に預託されたドックランズは、2 歳時の 8 月にクラス 4 戦 (ヘイドック、芝 1,390m) でデビューを迎えて 2 着。この年はこの 1 戦のみとなりました。翌年は 3 月のクラス 3 戦 (ウルヴァーハンプトン、全 1,730m) で始動してキケロズギフトの 2 着でしたが、翌月の未勝利戦 (ケンプトン、全 1,400m) ではスタート直後に不利があったものの、4~5 番手から最後は 1 馬身 1/4 差抜け出して初勝利を挙げました。続く 5 月のクラス 4 ハンデ (アスコット、芝 1,600m) も後方 2 番手から徐々に差を詰めると、楽な手応えで残り 400m で先頭に立ち、最後はリードを 6 馬身半に広げて完勝しました。

この後、6 月のロイヤルアスコット開催のクラス 2 ハンデ戦、ブリタニアステークス (芝 1,600m) に向かい、29 頭立ての 1 番人気に推されます。直線コースで集団は内と外の二手に分かれ、ドックランズはスタンド側の後方でレースを進めると、徐々に進出して残り 200m で先頭争いへ。内の馬群から抜け出していたニューエンデバー (この年の後半にオーストラリアに移籍して昨年の G1 ドゥームベンカップで 2 着、今年の G3 ロードメイヤーズカップを優勝) をゴール手前で際どくとらえて 3 連勝を達成しました。続く重賞初挑戦の英サラブレッドステークス (グッドウッド、G3、芝 1,600m) は後方のまま 6 着、10 月のクラス 2 ハンデ (アスコット、芝 1,600m) は中団後方から伸びたものの 1 馬身 3/4 差の 3 着で 3 歳シーズンを終えました。

4 歳となり 5 月のパラダイスステークス (アスコット、L、芝 1,600m) で初戦を迎えます。鞍上はこれまでのヘイリー・ターナー騎手からオイシン・マーフィー騎手に替わり、先行して粘りを見せたものの、この後重賞を制するクドワーにクビ差競り負けて 2 着。次いでフランスに渡り、ヘイリー・ターナー騎手とのコンビに戻ってモントルトゥー賞 (パリロンシャン、L、芝 1,600m) に出走しますが、後方から半馬身届かずまたしても 2 着。イギリスに帰国後、ロイヤルアスコットのクイーンアンステークス (G1、芝 1,600m) に向かって単勝 11 倍の 7 番人気に推されると、スタンド側の後方から良く伸びて、昨年のマイルチャンピオンシップに来日したチャリン (5 着) に 2 馬身 1/4 及ばず 3 戦連続の 2 着となりましたが、初の G1 の舞台で好走を見せました。

この後は、距離を伸ばして中距離のG1を3戦しますが、英インターナショナルステークス(ヨーク、G1、芝2,050m)は見せ場なく7着、オーストラリア遠征を敢行してのコックスプレート(ムーニーバレー、G1、芝2,040m;ブレイク・シン騎手)、マッキノンスステークス(フレミントン、G1、芝2,000m;デ克蘭・ベイツ騎手)も先頭争いに加わることなくそれぞれ5、6着と結果が出ず。さらに転戦して香港マイル(シャティン、G1、芝1,600m;マーク・ザラ騎手)でマイルに距離を戻しましたが、直線で前が壁になって伸びず、最後は後退して12着で海外遠征を終えました。

今年は昨年同様、パラダイスステークスで始動し、中団から先頭を窺いますが、サルディニアンウォリアーを最後までとらえることができず半馬身差の2着、続くダイオメドステークス(エプソム、G3、芝1,700m)は直線で進路がなかなか開かず、外に持ち出されて追撃を開始しますが、3/4馬身差の3着に追い上げるのが精いっぱい、あと一步で勝利に届かない内容が続きました。この二戦の鞍上はリチャード・キングスコート騎手でした。

しかし、この後のクイーンアンステークスで、12戦ぶりの勝利を初のG1タイトルで飾ることになります。ここは昨年の香港マイル以来2度目の騎乗となるザラ騎手を鞍上に迎えて6番人気タイ。スタートが合わず後方からとなりますが、徐々に前に接近しながら内へ進路を取ると、残り200mで先頭に躍り出ます。ここで騎手が鞭を落とすハプニングがありながらも、後ろから迫る昨年の愛2000ギニー馬ロザリオンをハナ差抑えて、初重賞勝ちをG1の舞台で挙げました。

次いで向かった7月末のサセックスステークス(グッドウッド、G1、芝1,600m)は右回りコースが嫌気されたか単勝34倍の5番人気で後方から伸びず5着、続くフランスのジャックルマロワ賞(ドーヴィル、G1、芝1,600m)は日本のアスコリピチェーノの外の5番手につけますが、もうひと伸び足りず4着。そして前走のクイーンエリザベスII世ステークス(G1)は得意とするアスコット競馬場の直線マイルコースでしたが、後方の位置取りから前が詰まるシーンもあり、そこからジリジリと脚を伸ばしたものの勝ったキケロズギフトから1馬身3/4差の4着でレースを終えました。この3戦はトム・マーカント騎手の騎乗でした。

ドックランズはここまで20戦4勝、2着6回、3着2回。右回りは5戦1勝、2着1回、左回りは6戦して2着2回、3着1回。9戦して3勝、2着3回、3着1回、4着2回の戦績が示すとおり、直線コースを得意としています。重馬場では4戦1勝、2着1回、3着1回。芝1,600mでは13戦して3勝、2着4回、3着1回で、6着以下だったのは3歳時に重馬場で行われた英サラブレッドステークス(6着)と昨年の香港マイル(12着)の2戦。マイルの持ち時計はその香港マイルでの1分34秒3(良馬場)。ワールドベストレースホースランキングではランク外ですが、クイーンアンステークスを勝った時のレーシングポストのレーティングは120で、今年、英愛の芝1,600m~1,800mに出走した競走馬では、G1愛2000ギニー(1着)のフィールドオブゴールド(128)、G1ロッキンジステークス(1着)のリードアーティスト(122)、クイーンエリザベスII世ステークス(1着)のキケロズギフト(121)、ロッキンジステークス(2着)のダンシングジェミナイ(121)、G1英2000ギニー(1着)のルーリングコート(121)、G2ジョエルステークス(1着)のゼウスオリンピオス(121)に次ぐ数字となっています。

● 馬主 : O. T. I. Racing

OTIレーシングは実業家のテリー・ヘンダーソン氏と元クリケット選手のサイモン・オドネル氏によって1999年に設立されました。本社はオーストラリアのメルボルンにあるほか、シドニーとフランスのシャンティイにも拠点があり、競走馬の購入や管理、引退後の福祉プログラムなど、オセアニアやヨーロッパで事業を行っています。

本馬以外の主な所有馬に2007年ヴィクトリアダービー馬キブツ、2012年オーストラリアンカップなどG1・3勝のマニガー、2012年クイーンズランドダービーを勝ったブランブルズ、2017年豪1000ギニー馬アロイシア、2017年コーフィールドステークスなど3つのG1を制したゲイローチョップ、2018年新ダービー馬ヴィンデダンス、2020年豪ダービー馬クイックシンカー、2021年シドニーカップ優勝のセリーノ、2021年トゥーラックハンデキャップなどG1・2勝のアイムサンダーストラック、2024年カンタベリーステークス勝ちのレディラグーナ、2024年クイーンズランドダービー勝馬ウォーモンガー、2025年サウスオーストラリアンダービーを勝ったファミニレなどがいます。

● 調教師：ヘンリー・ユースタス (Henry Eustace)

1988 年 5 月 12 日生まれ。父ジェームズは元調教師、おじのデビッド・オートンは香港の元調教師、弟のデビッドも調教師で 2024/2025 年シーズンにオーストラリアから香港に拠点を移しています。自身はニューマーケットで育った後、ロンドンの名門パブリックスクール、ハロウスクールに通う傍ら、イギリス有数の競走馬オークション会社であるタタソールズ社の血統部門で働き、エジンバラ大学へ進んでからは休暇を利用して父の厩舎をサポートしました。大学卒業後はオーストラリアに渡ってリー・フリードマンやピーター・スノーデンの厩舎で経験を積み、次いで多くのホースマンを養成しているアイリッシュナショナルスタッドでサラブレッドの繁殖資格を取得、ニューマーケットへ戻った後はクリス・ウォール、ジェレミー・ノスィーダの各厩舎で業務に従事。海外でさらなる経験を積むため、今度はアメリカに移ってクリストフ・クレメント調教師のもとで 3 年間働き、帰国してからはウィリアム・ハガス厩舎でアシスタントを務めました。

2021 年に父の厩舎を引き継ぎ、調教師としてのキャリアをスタートさせ、4 月 20 日にヤーマス競馬場で初勝利を挙げてその年はイギリスで 14 勝。2022 年はラテンラバーでパレスオブホリールードハウスステークスを制してロイヤルアスコット開催初勝利を記録するなど 24 勝、翌 2023 年は本馬による 3 勝を含む 26 勝と着実に勝利を積み重ねました。初の重賞タイトルは本馬とともにオーストラリアに遠征したシーキング (OTI レーシングなどが所有) が当地で制した 2024 年 10 月のベンディゴカップ (G3)。そして今年 6 月に本馬がクイーンアンステークスを勝って厩舎に初の G1 タイトルをもたらすと、その 3 日後にはタイムフォーサンダルズが同じロイヤルアスコットの G1 コモンウェルスカップを制しました。11 月 10 日現在、212 戦 22 勝、1,384,877 ポンドで獲得賞金順のリーディングは 22 位となっています。今回のマイルチャンピオンシップが管理馬の日本初出走です。

● 騎手：マーク・ザーラ (Mark Zahra)

1982 年 6 月 27 日生まれ。西オーストラリア州のパース近郊で育ち、競馬好きの祖父の影響で騎手を目指します。1998 年に西オーストラリア州でデビューし、翌年に初勝利を挙げると、ヴィクトリア州に拠点を移してさらに経験を積みみます。2004 年からはシンガポールを中心に騎乗して、同年のラッフルズカップを優勝。オーストラリアに戻って、2006 年アバブデックでドゥームベンカップを制し、初の G1 タイトルを獲得すると、ケリン・マカヴォイに次ぐダーレーの主戦騎手を 3 年務めるなど、実績を積み重ねました。

以降、メルボルンのトップジョッキーの一人として活躍し、数多くの G1 タイトルを獲得しました。これまでの主な騎乗馬にパレンティノ (2016 年オーストラリアンギニー)、ゲイローチョップ (2017 年コーフィールドステークス、2018 年ランヴェットステークス)、レヴェンディ (2018 年豪ダービー)、サンタアナレーン (2018 年 VRC スプリントクラシック、2019 年 T. J. スミスステークス)、ディープインパクト産駒のフィアースインパクト (2020 年マカイビーディーヴァステークス)、ベリーエレガント (2020 年ターンブルステークス、コーフィールドカップ)、アイルサンダーストラック (2022 年マカイビーディーヴァステークス)、ゴールドトリップ (2022 年メルボルンカップ、2023 年ターンブルステークス)、ウィズアウトアファイト (2023 年コーフィールドカップ、メルボルンカップ)、オータムエンジェル (2024 年豪オークス) など。

今年 7 月末で終了した 2024/2025 年シーズンはメルボルン地区において 244 戦 43 勝でリーディング 4 位、この 2025/2026 年シーズンはトウラックハンデキャップ (G1、トランスアトランティック)、ヴィクトリアダービー (G1、オブザーバー) など、11 月 10 日現在、142 戦 32 勝で首位となっています。今回の日本での騎乗は 2009 年スプリンターズステークス (シーニックブラストで 16 着) 以来 2 度目のこと。ドックランズへの騎乗はこのマイルチャンピオンシップが 3 回目ですが、前回のクイーンアンステークスは、シーズンオフをスペインのイビサ島で過ごす前に立ち寄った先でのビッグタイトル獲得となりました。